

平成23年度 高松市財務書類（基準モデル）の概要

◆ 財務書類整備の目的

- 本市では、平成20年度決算から、企業会計の考え方を取り入れた財務書類4表を作成し、公表しています。
- これは、一般会計や特別会計、公営企業会計に公社等の関連団体も加えた連結ベースで、本市全体の財政状況を示すものです。
- 資産・負債の残高とその推移および現金収支以外の取引も含めて把握し、将来の住民負担を明らかにするとともに、適切な資産・債務管理の促進を図ることを目的としています。
- なお、23年度決算分より、財務書類の分析結果を予算編成等に反映させるため、作成および公表時期を翌年度末から10月へ前倒しました。

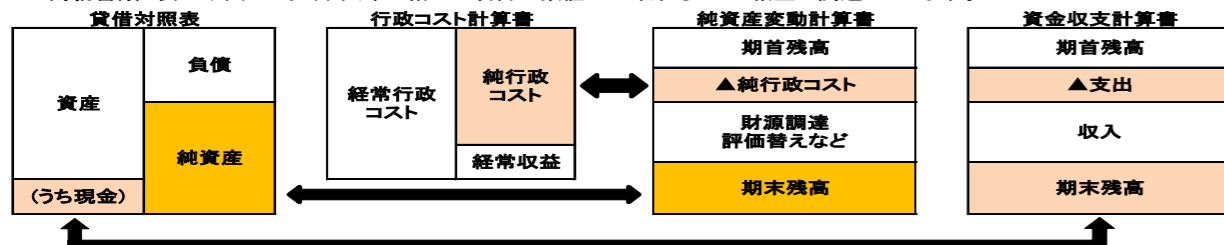
◆ 対象となる会計の範囲

区分	会計名称	区分	団体名称
一般会計	一般会計		
特別会計 12	国民健康保険事業特別会計	関連団体 13	香川県後期高齢者医療広域連合
	後期高齢者医療事業特別会計		高松市土地開発公社
	介護保険事業特別会計		財団法人高松市福祉事業団
	母子寡婦福祉資金貸付事業特別会計		有限会社湯遊しおのえ
	食肉センター事業特別会計		株式会社高松市食肉卸売市場公社
	競輪事業特別会計		有限会社香南町農業振興公社
	中央卸売市場事業特別会計		財団法人高松市学校給食会
	中小企業勤労者福祉共済事業特別会計		財団法人高松市スポーツ振興事業団
	奥の湯温泉事業特別会計		財団法人高松市国際交流協会
	土地区画整理換地清算事業特別会計		財団法人高松観光コンベンション・ビューロー
	駐車場事業特別会計		財団法人高松市花と緑の協会
	病院事業会計		財団法人高松市水道サービス公社
水道事業会計	財団法人高松市文化芸術財団		
公営企業会計 3	下水道事業会計		
	下水道事業会計		



◆ 財務書類4表のイメージ

財務書類4表は下図のとおり、矢印で結んだ項目の数値が一致することで相互に関連しています。



◆ 財務書類 4表（基準モデル）連結ベース

■ 貸借対照表（バランスシート）

年度末における資産がどの程度あり、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを示すものです。左側に住民サービスを提供するために保有している「資産」を表示し、右側にその財源で、地方債や退職給付引当金など将来世代の負担となる「負債」、市税や国・県の補助金など現在までの世代の負担で取得した「純資産」を表示しています。
「資産＝負債＋純資産」

資産の部(市が所有する財産の内容と金額)				負債の部(将来世代による負担)			
	H22	H23	増減		H22	H23	増減
1 金融資産				1 流動負債			
(1) 資金				(1) 公債(短期)			
現金・預金など	165億円	196億円	31億円	公債残高のうち翌年度償還予定額	160億円	219億円	59億円
(2) 債権				(2) その他			
未収金・貸付金など	95億円	106億円	11億円	未払金のうち翌年度支払予定額など	59億円	69億円	10億円
(3) 有価証券、投資等				2 非流動負債			
190億円	201億円	11億円	(1) 公債				
2 非金融資産				公債残高のうち翌々年度以降償還予定額	2,439億円	2,378億円	△61億円
(1) 事業用資産				(2) 退職給付等引当金			
庁舎、保育所、学校、福祉施設など	2,496億円	2,395億円	△101億円	315億円	311億円	△4億円	
(2) インフラ資産				(3) その他			
道路、公園、上下水道など	1兆1,760億円	1兆1,635億円	△125億円	14億円	14億円	0億円	
(3) その他資産				未払金のうち翌年度以降支払予定額など			
繰延資産など	1億円	1億円	0億円	負債合計	2,987億円	2,991億円	4億円
資産合計	1兆4,707億円	1兆4,534億円	△173億円	純資産の部(これまでの世代が負担した支払済みの資産)			
				純資産	1兆1,720億円	1兆1,543億円	△177億円
				負債および純資産合計	1兆4,707億円	1兆4,534億円	173億円

【貸借対照表から見る本市の状況と課題】

市税や国、県の補助金などで取得済みの「純資産」が年々減少傾向にあります。これは、主に経年による減価償却等が進んでいることが資産価値の減少として評価されるため、いわば、保有施設の老朽化が進んでいることを示しています。今後の課題として、老朽化が進む保有施設については、維持管理コストの削減と計画的な予防保全によるライフサイクルコストの縮減を図るとともに、一方では、将来の施設更新に備えた資金の確保が必要とされます。さらには、将来における施設保有量等の適正化を念頭におきながら、現役世代と将来世代の負担の公正や資産・負債・純資産のバランスはどうかについて、総合的な検討を始める必要があります。

■ 行政コスト計算書

当該年度における資産形成につながらない行政サービスの提供に要するコストと、それらに充当する使用料・手数料といった市税等以外の収入との関係を明らかにするものです。建物・設備などの1年間の「価値の減少分」も「減価償却費」という費用として計上をしています。

		H22	H23	増減
経常費用		2,271億円	2,298億円	27億円
1 人にかかるコスト	職員給与費、嘱託職員報酬など	392億円	390億円	△2億円
2 物にかかるコスト	減価償却費、維持補修費など	350億円	301億円	△49億円
3 業務にかかるコスト	委託費、公債費(利子)など	383億円	396億円	13億円
4 移転支出的なコスト	社会保障給付(扶助費)、補助金など	1,146億円	1,211億円	65億円
経常収益		459億円	449億円	△10億円
使用料・手数料等		459億円	449億円	△10億円
純行政コスト(経常費用－経常収益)		1,812億円	1,849億円	37億円

【行政コスト計算書から見る本市の状況と課題】

市税や地方交付税、補助金等を財源とする「純行政コスト」が年々増加傾向にあります。この主な要因は、景気低迷に伴う経常収益(使用料や手数料等)の減少と生活保護費等、社会保障経費の増加にあります。今後の課題として、使用料や手数料等については、受益者負担の原則に立った積極的な見直しや、新たな収益財源の確保を検討する必要があります。また、社会保障経費については、今後も増加傾向が持続することから、市単事業など各種施策・事業の選択に当たっては、事業仕分けの考え方も取り入れ、必要性・効果性、民間との役割分担などについて十分に検討するなど、様々な工夫によるコスト(経常費用)の抑制に取り組む必要があります。

■ 純資産変動計算書

貸借対照表の純資産(資産－負債)について、会計年度中の期首から期末への動きを表しています。純資産の増減は、市税や国・県の補助金など、現在までの世代で負担した「純資産」が1年間で増えたか減ったかを表わしています。

		H22	H23	増減
期首純資産残高		1兆1,950億円	1兆1,720億円	△230億円
当期変動高		△230億円	△177億円	53億円
(1) 純行政コスト	経常費用－経常収益	△1,812億円	△1,849億円	△37億円
(2) 財源調達	市税、地方交付税、国県補助金など	2,271億円	2,274億円	3億円
(3) その他	インフラ資産の減価償却(目減り分)など	△689億円	△602億円	87億円
期末純資産残高		1兆1,720億円	1兆1,543億円	△177億円

●純資産残高 177億円減 期首 1兆1,720億円 → 期末 1兆1,543億円 (▲177億円)

■ 資金収支計算書(キャッシュフロー計算書)

1年間の資金の増減を示すもので、どのような活動に資金を必要としたのかを表わしています。

		H22	H23	増減
期首資金残高		164億円	165億円	1億円
当期収支		1億円	31億円	30億円
(1) 経常的収支	税収入・国庫補助金、人件費支出など	224億円	231億円	7億円
(2) 資本的収支	固定資産売却収入、公共資産整備支出など	△124億円	△158億円	△34億円
(3) 財務的収支	市債発行収入、元利償還金支出など	△99億円	△42億円	57億円
期末資金残高		165億円	196億円	31億円

●資金残高 31億円増 期首 165億円 → 期末 196億円 (+31億円)

●プライマリーバランス = 経常的収支 231億円 + 資本的収支 ▲158億円 → 73億円の黒字

◆ 他市との比較

① 社会資本形成の世代間比率【負債／(事業用資産＋インフラ資産)】

※将来世代への負担比率を示し、比率が高いほど将来世代の負担割合が高い。

連結	
高松市	21.3 %
豊田市	9.5 %
前橋市	28.6 %
倉敷市	37.6 %
旭川市	39.0 %
岐阜市	41.1 %
富山市	48.6 %
平均	32.2 %

【本市の状況】

(事業用資産＋インフラ資産)は1兆4,030億円で、昨年度から226億円減少しました。負債は2,991億円で、昨年度から4億円増加しました。この結果、社会資本形成の世代間比率は昨年度より0.3%増加し、21.3%となりました。現在保有する社会資本の約2割を将来世代が負担することとなっています。他市との比較では平均を10.9%下回り、将来世代の負担を比較的軽く抑えています。現役世代と将来世代の適正な負担比率は、今後の検討課題です。

② 純資産比率【純資産／総資産】

※この比率が高いほど財政状況が健全であるといえる。

連結	
高松市	79.4 %
豊田市	91.1 %
前橋市	72.4 %
岐阜市	65.6 %
倉敷市	64.6 %
旭川市	62.2 %
富山市	53.7 %
平均	69.9 %

【本市の状況】

総資産は1兆4,534億円で、昨年度から173億円、純資産は1兆1,543億円で、昨年度から177億円減少しました。この結果、純資産比率は昨年度より0.3%減少し、79.4%となりました。総資産のうち、返済義務のない純資産が約8割となっています。他市との比較では平均を9.5%上回り、財政状況が比較的健全であることがわかります。

対象団体は「基準モデル」採用の中核市6市
 ※高松市以外はH23年度については、まだ未公表のため、H22年度の数値を記載